

筒井淳也『仕事と家族』「終章 社会的分断を超えて」— 要点（短くまとめると）

筒井の結論

- ・ 性別分業を克服し、「共働き社会」を目指さねばならない
- ・ 「共働き社会」は男性と同じく女性に働く機会を保障する社会
- ・ それは分厚い社会保障のもとでの福祉社会でもなければ、徹底した規制緩和のもとでの競争社会でもない

日本社会がとるべき方針

- ・ 目標として据えるべきは、労働力と出生力の維持・拡大

互いに支えあうために

- ・ 有償労働の世界で多様な人々が活発に働く環境があることこそが、社会に余裕をもたらし、弱者を救うことにもつながる
- ・ 社会全体の経済力の余裕がないと、格差を縮めるための富の再分配もままならない

現代社会で尊重すべき三つの権利：経済的権利・政治的権利・社会的権利

- ・ 日本では女性も移民もいまだに経済的権利を獲得できていない。この問題を解決せずに政治的権利や社会的権利の不足を優先的に解決しようとする、社会に歪みが生じ、社会的分断が深くなってしまう
- ・ 格差以上に深刻なのが社会的分断

社会的分断を克服するには — 有償労働と社会的連帯

- ・ 社会的分断からくる対立は、税や社会保険の負担を一定程度担うことができる所得をともなった仕事は社会の様々なグループに配分されることで、はじめて緩和される
- ・ 「働くこと」を基軸とした連帯をつくりあげることが重要
- ・ 有償労働は、税と社会保険料の負担を通じて、世帯を超えた支え合いを実現する
- ・ 働いてお金を稼ぐことの持つ社会的連帯促進機能を積極的に評価すべきである